



第7号

令和4年11月30日

庄和すずらん幼稚園

保育随想

★ 人生の応援歌！

晩秋を迎えております。木々の葉の紅葉も高所から平野にまで降りてきて、それぞれが冬支度をしている気配も感じます。私達も今年もあと一か月で、お仕舞いに成って居ることを一方で思いながら、一年が早い、益々早くなった！と思う時期ですね。

“年年歳歳花相似たり、歳歳年年人同じからず”と昔から言われる言葉であります。季節は幾らかの遅い早いはあるけれど、同じように季節は必ず回って来ます。しかし、人の世は没する者があれば生まれる者があり、年と共に変わってゆく。人の世は自然の営みと同じようにはいかないことを言い表しています。私たちは、野に咲く花も自然を作る木々にも、その役目を一生懸命果たして美しい花を咲かせる姿に、新緑の緑に、そして紅葉して落葉する姿に、いとおしさを感じ、畏敬の念も抱きます。この自然の営みに囲まれて沢山の事を学び体験して、喜びも悲しみも、はかなさも貰いながら前向きに生活出来ていることを感じます。自然に支えられて、穏やかに平和に過ごさせて貰っているだけで、十分なのであります。季節が変わる度に今ある自分を整えたり前向きに成れるのです。親しい友や家族との旅も、そんな喜びを見付け、自分を取り戻す時間とも言えるかと思えます。私は小学校の6年生の終わりにカメラを買って貰いました。嬉しくて目に入るものを撮り続けてきました。ある時代は、働く姿をテーマに、母親は勿論ですが、南桜井駅前の商店の人達にもレンズを向けて、撮りまくりました。成人してからも、その当時の人から、ひろっさんに撮ってもらった写真、仏様に飾ってあるよ！と言われて嬉しかったことも思い出に成っています。社会人に成ってもカメラは携行品の一つで、この幼稚園に関わってからは、仕事は写真？周囲からも思われて居たことにも甘んじて受けておりました。お付き合いの旅でカメラを持たずに出かけると、あれ、今日はカメラは持って来なかったの？と聞かれたり、自分でも失敗した！と旅先で思ったことが何度かありました。私の弟が周囲に、この人は撮りマーと言われてるんで！と紹介をする時があります。少々、不本意な所は有りますが、これも甘んじて受け流しております。写真はね、その人の今を撮るんです！その人の喜びの心を撮るんです！形に残してあげるんです！プリントアウトの作業に出て来る一人ひとりが、とても素敵なんです。その人が今まで以上に好きになれるよ！愛おしい気もちにも成るもんです。長く幼稚園でお世話になった南桜井駅前が開業していた蓮実健三さんが、写真は良いよ、撮る時につこり、お渡しする時につこり、そして、この間はどうもありがとうございます、につこり！と三度につこり出来るんですよ！と名言を残してくれました！しかし、これにも反省が生まれて久しいのです、四季折々の自然の美しい風景にレンズは向けるものの、生かしかれないのです。どうしても周囲に居る人に目が向いてしまうのです。いつの日か自然や静物と対話できる人に成りたい！と若い頃から思っていた居ましたが、未だレンズは人を追いかけております。振り返ると写真撮影での出会いの方々が、今の自分を支えて頂いている方々に成っております。